



楽しまなびや*

しなやかに未来を創造する児童の育成



「おかげさま」の気持ちを大切に



夏休みが終わり、9月からは、学校としての大きな行事が目白押しです。子どもたちが大きく成長する時期でもありますので、一人ひとりの成長を支えられるようにしていきます。

9月1日の朝会では、校長の経験をふまえ子どもたちに次のようなメッセージを伝えました。

この夏休み中、ニュースに目を向けると、私たちの暮らす日本、そして世界の中で、とても胸が痛むような大きな自然災害がいくつも起こりました。

激しい大雨で川の水があふれてしまったり、大きな地震が起きてお家が壊れてしまったり、外国では山が崩れて街が泥に飲み込まれてしまったりする災害もありました。一瞬にして、当たり前だった毎日の生活や、大切な命が奪われてしまった人たちがたくさんいます。今も、不自由な生活のなかで、一生懸命にがんばっている人たちがいるのです。

それに比べて、今、私たちはどうでしょうか。こうして安全な学校に集まり、大好きな友達や先生と笑顔で9月のスタートを切ることができています。まずは、この「当たり前にある毎日の生活」が、実はとてもありがたく、奇跡のようなことなんだということを、みなさんと一緒に、心に刻みたいと思います。

実は、私もこの夏休み中、この「当たり前にある毎日の生活」のありがたさや、周りの人の優しさを心から実感する出来事がありました。

私は足の手術のために、しばらくの間、病院に入院していました。手術をした後は自分の足で歩くことができず、「松葉づえ」を使って、やっとの思いで生活をしていました。松葉づえを使って動くことはできても、両手がふさがっているため、できないことがたくさんありました。そんなとき、周りのたくさんの人たちが、私に手を差し伸べてくれました。「大丈夫ですか？」と声をかけてドアを開けてくれる人、荷物を代わりに持ってくれる人、エレベーターのボタンを押して待っていてくれる人。見ず知らずの人や大窪小学校の先生方、みんなが私を助けてくれました。

たくさんの親切に出会うたびに、「自分は今、たくさんの人に支えられて、『おかげさま』で生きているんだな」と、体全体で実感することができたのです。私たちは、一人では生きていくことができません。気がつかないところでも、必ず誰かに支えられ、助け合って生きています。

それは、この学校生活でも全く同じです。みなさんが夏休みの間も、学校の「花壇の花」や「畑の野菜たち」のために、毎日一生懸命に水をやり、大切に育ててくれていた人たちがいます。先生方や、地域の方々です。誰かが汗を流して水やりをしてくれていたからこそ、今、学校にはきれいな花が咲き、畑には野菜が育っています。私たちが気持ちよく学校生活を送れている裏には、必ず誰かの「目に見えない支え」と「おかげさまで」があるのです。

今日からまた、学校生活が始まります。みなさんも、誰かに支えられていることに「ありがとう」の感謝の気持ちを持ちながら、今度は自分が、友達や周りの人のためにできることを探してみてください。「困っている友達に声をかける」「みんなのために進んで係の仕事をする」、そんな小さな優しさで十分です。

お互いに支え合い、助け合いながら、笑顔あふれるすばらしい毎日にしていきましょう。

＊ ひとりでも みんなでも だれとでも まなんでいこう ＊

大窪小学校で大切にしている「ひとりでも」「みんなでも」「だれとでも」学んでいくことを、各学年で日常的に実践しています。その様子をお知らせします。

1年



やりたいことがいっぱい
の1年生。一人ひとりの願
いをみんなで実現してい
ます。「じっけんしたい」
「つくりたい」…そんな思
いがたくさん。「みんな
でやった」「自分でため
した」という声であふれ
ています。

2年



1年生の時につくったピ
ザ。今年は、もっと自分
たちの力でピザを作り
たい！ということで、一
人ひとりがピザづくり
のための野菜を育てま
した。一人でもみんな
でもだれとでも、がんば
っています。

3年



初めての理科で、虫や植
物の観察をする時間が
たくさんありました。み
んなで観察したり、一
人で黙々と記録したり
していました。一人でも
粘り強くがんばる力が
育ちつつあります。

4年



ごみの処理について学
んだことを新聞にまと
めました。まずは全員
で新聞の作り方を学
習し、その後は一人
ひとりの個性を生か
した新聞を作りました。
自分のこだわりをも
って、がんばる力が
育っています。

5年



初めての家庭科での調
理。一人ひとりが決
めた野菜や加工品を
もってきて、自分の
力で料理しました。
準備や片付けは、
同じテーブルを使う
仲間と力を合せて
いました。だれと
でもがんばる力が
ついています。

6年



家庭科での炒める調
理。メニューも手
順も全て一人
ひとりが考え
ました。また、
校内できれい
にしたいところ
を決めて、掃
除をする時間
もありました。
自分で決めた
ことを、一人
でもがんばる
力がついて
います。



プ活動が進んでいきます。

そして、お弁当を持参で実施する「わんぱくイベント」は、今年もわんぱくらんどへの遠足に決まっていますので、これから準備を進めていきます。

小規模校は、限られた人間関係の中で生活をしていくことになります。クラスの枠をこえた、様々な関わりを、今後も意図的に設けていきます。



＊ 子どもと先生がつくる一日～木曜日の日課～ ＊

本校は、専科の授業も学年があがるにつれ増えていくなどの理由により、時間割が概ね固定されています。時間割の大きな変更が少ないため安定した生活を送れるメリットがありますが、一方で融通が利かないというデメリットもあります。例えば、子どもが「もっと追究したい。」「この活動を1日やりたい。」「総合で、きりのよいところまでやりたい。」などの思いが子どもに生まれても、「次の授業があるから。」と、時間で区切らざるを得ないのです。そこで、木曜日は、「子どもと先生がつくる日」として、専科の授業を極力入れず、子どもたちの「もっとやりたい。」を大切にすることにしました。これは、「ひとりでも みんなでも だれとでも」そして「わたしらしく あなたらしく」を大事にする取り組みの一つでもあります。これまでのところ、おとなにも子どもにも大変好評です。